

# ビワ生育情報

千葉県  
平成25年11月号

## 平成25年10月の気象

平成25年10月の半旬別気象は表1に示した。平均気温は、第4及び第6半旬を除く4半旬で平年を上回った。月平均気温は19.0℃で平年より1.1℃、前年より0.7℃高かった。

降水量は、第3、第4、第6半旬で平年を上回った。月合計は、455mmで平年より203mm(80%)、前年より154mm(51%)多かった。

日照時間は、第1、第4、第5半旬で平年を下回った。月合計は、130時間で平年より7時間(5%)、前年より35時間(21%)少なかった。

表1 平成25年10月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	21.0	20.5	22.2	27	43	56	10	20	31
2	23.4	18.7	18.9	2	75	11	36	20	22
3	20.5	18.7	18.7	131	31	8	34	21	23
4	16.9	17.7	17.7	215	38	70	15	22	27
5	17.7	16.5	17.4	20	29	82	3	24	30
6	15.1	16.0	15.4	62	37	75	33	29	33
平均/計	19.0	17.9	18.3	455	253	301	130	137	165

## 12月の作業 (花房の発育は次ページ)

気温が低下すると、ビワの枝葉や根の伸長はほとんど停止するが、開花は続き、幼果は少しずつ肥大する。12月は、寒害防止の準備を行い、来春に向けて、苗木の植付け準備にとりかかる。

## 防寒の準備

開花期は、平年並みと予想されるが、寒害には十分気を付ける。毎年1～2月に寒波が襲来しているので、年内から防寒の準備を始める。

幼木の防寒法としては、こも掛けあるいは枝を結束する方法があるので、あらかじめ資材を用意しておく。成木園では、園内を加温する方法があるので、火点設置場所の整備、ヒーター及び燃料の手配をしておく。また、防霜ファンの設置によって、放射冷却現象を緩和させることも有効である。

## 植付け(定植)と植え穴の準備

ビワの根の伸長は、3月上旬から始まるので、苗の植付けの適期は2月中下旬頃になる。植え穴の準備は年内に済ませておく。改植の場合には、白紋羽病の発病跡地は極力避ける。やむを得ず、発病跡地へ植え付ける場合は、農作物病害虫雑草防除指針に従って防除してから行う。また、前作の根が残ると白紋羽病の発生源になるので、根を完全に除去するこ

とも重要である。

新植の場合、苗の植え付け距離は3～3.5mとし、10a当たり80～110本を植え付ける。樹冠の広がりに合わせて間伐を行い、最終的な栽植距離は6～7mにして、10a当たり20～27本の永久樹を残すようにする。

## 台風による被害を受けた樹の管理

11月1日現在、8個の台風が日本列島本土に上陸又は接近した。倒伏した樹は起こし、損傷の程度に応じて枝を切り詰める。起こせない場合は、管理しやすいように枝を整理する。根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。バーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは、農作物病虫害雑草防除指針に従って防除する。

## 樹及び花房の発育

今夏は好天候だったため、樹の発育は順調である。着花房率は表2に示した。本年の着花房率を品種別にみると、「楠」が98.0%、「大房」が92.4%、「田中」が90.4%で、「楠」は前年並みで、「大房」及び「田中」は前年よりやや低い。平年と比べると、3品種共に著しく高い。枝別にみても、中心枝、副梢共に着生は多い。しかし、花房の大きさは全般的にやや小さく、1つの花房に着生する花数は少ない。本年のように、ほとんどの枝に着花する場合は、花房が貧弱で、開花が揃いやすいため、幼果が寒害を受けやすくなる。そのため、摘房は様々な発育段階の花房が混在するように行い、摘蕾は花房が3～5cmの早い時期に行うことによって、開花期の延長を図る。

本年は、出蕾期は平年より遅れたが、その後の花房の発育はやや早い。11月1日時点で「楠」及び「田中」の開花は始まったが、「大房」の開花は始まっていない。開花の進みは前年並みと思われるが、今後の天候次第で早く進むことも考えられる。そのような開花の早い園では、寒害の影響を受けることも予想されるので注意する。

アブラムシの発生は平年より少ないが、カミキリムシ類の被害穴はやや多い。本年はカメムシのエサとなるスギ、ヒノキの球果が平年よりやや多いため、来年のカメムシ発生量はやや多いと見込まれる。詳しくは、農林総合研究センター病虫害防除課の発生予察情報を参考にする (<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/index.html>)。

表2 着花房率(暖地園芸研究所)

品 種	本年 (%)	平年 (%)	前年 (%)
楠	98.0	78.1	98.0
大 房	92.4	72.5	99.1
田 中	90.4	75.1	96.1

平年：1974年～2012年の39年間の平均

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産者向け情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>